AGRI WORK POINT
アグリ ワーク ポイント

茶

春肥と年間の施肥管理について

茶指導販売課　亀山 毅人

春肥窒素吸収率と施肥の重要性

【図1】は、春肥の窒素が茶樹のどの部分へ吸収されているのかを示しています。春肥窒素の全吸収率は38％で、全吸収量のうち79％が「葉部」、21％が「茎部」と「根部」へ吸収されていることがわかります。春肥は一番茶だけでなく二、三番茶への影響も高いため、適期に施用するようにしましょう。

施肥時期

早場所では1回目を2月上旬、2回目を3月上旬を目安に施用しましょう。この時期は地温が低いため、分解の緩やかな有機質肥料と速効性のある化成肥料などを含む配合肥料をバランスよく施用しましょう。

【図1】春肥窒素の吸収率と器官別割合

※茶大百科Ⅱ技術資料より抜粋

年間の施肥管理

品質向上や樹勢維持のために、年間に複数回の施肥を行います。

・秋肥 → 摘採や整枝によって消耗した樹勢の回復と充実

・春肥 → 一番茶～三番茶の収量増加と品質向上

①肥料は分けて施用する

茶樹が肥料分を効率よく吸収できるよう、春肥だけでなく夏肥や秋肥も施肥基準に沿って施用しましょう。

②雨に注意

肥料は水分がないと肥料成分が溶けないため、雨が降ったあとに施肥をするとよいといわれています。しかし、雨が多すぎても流れてしまいますので、注意しましょう。

③施用後は耕うんする

施肥後に耕うんし、土壌混和をすることで、肥料の流亡を防いで吸収率が上がります。また、肥料のガス化を防ぎ、根傷み防止効果もあります。